

2018年 JACD 冬の例会のお知らせ

～JACD・咬合療法研究会九州支部合同例会～

会員の皆様、お世話になっております。

12月例会は、JACDと咬合療法研究会九州支部の合同例会となっております。

皆様お誘いあわせの上、ご出席頂きますようお願い申し上げます。

また、例会終了後忘年会も行う予定です。こちらにも是非ご参加ください。

平成30年12月16日（日）

時間：10時00分～16時15分予定

場所：JR博多シティ 10階 会議室

福岡県福岡市博多区博多駅中央街1-1JR博多シティ10階（092-292-9258）

忘年会

時間：17時00分より 会費：5000円

場所：八仙閣本店

福岡市博多区博多駅東2丁目7-27（092-411-8000）

タイムスケジュール

- 10：00～ 会長挨拶 樋口琢善先生
- 10：05～10：45 竹中崇先生
「マグネットオーバードンチャー
～超高齢社会におけるその有用性と臨床上の注意事項～」
- 10：45～11：25 山崎映先生
「顎関節症患者に対するアプローチ～ 行動変容とスプリント療法～」
- 11：25～12：05 鈴木浩之先生
「力の要素が強い歯周炎患者に対し咬合再構成を行った1症例」
- 12：05～13：00 昼休憩
- 13：00～13：40 岩城秀明先生
「支台形成を分析する ～匠の技の科学～」
- 13：40～13：45 休憩
- 13：45～14：55 川村則夫先生
「補綴治療の Longevity をめざして～私の包括歯科臨床～」
- 14：55～15：05 休憩
- 15：05～16：15 中島稔博先生
「Dentistry を再考する」
- 16：15～ 閉会の辞

○竹中崇先生（竹中歯科医院）

「マグネットオーバーデンチャー

～超高齢社会におけるその有用性と臨床上の注意事項～」

現在、日本は超高齢社会にある。高年齢になるにつれ、歯の喪失数が多くなる傾向にあり、無歯顎においても同じ状況であると言える。

無歯顎になる前の多数歯欠損症例において、その咬合修復のオプションとして主に部分床義歯（以下PD）が使用される。PDは健康保険が適用可能であり十分にその恩恵を当該患者に与えている一方、次のような問題点も同時に有する。

- 1、 鉤歯への過剰負担
- 2、 クラスプ等の審美面
- 3、 辺縁封鎖困難による清掃面

これらの問題点を解決する手段の一つとしてオーバーデンチャー（以下OB）が挙げられる。OBを用いることにより、上記問題点の解決のみならず、残根歯にアタッチメントを装着すれば、OBの維持装置として活用可能である。

今回、アタッチメントとして磁石を用いたマグネットOBについてその有用性や臨床上注意すべき事項を経験したので報告する。ご指摘・ご指導いただけましたら幸いである。

略歴：H16.3 福岡歯科大学卒業

H16.4 福岡歯科大学咬合修復学講座冠橋義歯学分野入局

H21.4 松尾歯科医院（佐賀県唐津市）勤務

H24.4 竹中歯科医院（北九州市若松区） 副院長

所属：日本顎咬合学会 認定医、日本包括歯科臨床学会（JACD）、

日本口腔インプラント学会、北九州歯学研究会若手会、上田塾、

福岡口腔インプラント研究会（FIRA）、歯達会、WBB

○山崎映先生（やまさき歯科医院）

「顎関節症患者に対するアプローチ ～行動変容とスプリント療法～」

顎関節症の発症には種々の要因があると考えられている。

原因を診査し、なるべく短期で高改善率を示す治療方法を選択し、長期的に安定するための治療が必要である。当院にて顎関節症患者に対して診断を行い、行動変容療法及び適切と考えられるスプリントを使用した2症例を報告させていただきたい。

略歴：2006年 長崎大学歯学部卒業

2007年 筒井歯科・矯正歯科医院勤務

2011年 やまさき歯科医院開業

所属：日本包括歯科臨床学会、日本学咬合学会、JACD 咬合療法研究会、西望歯学会

○鈴木浩之先生医（ソアビル歯科医院）

「力の要素が強い歯周炎患者に対し咬合再構成を行った1症例」

初診：2014年4月 年齢：55歳 性別：女性 主訴：左下前歯がとれた

現病歴：10年前から噛みにくさがあり腫脹を繰り返していた。左下3は4～5年前に自然脱落し人工歯によって固定されていた。今朝、ブラッシングによって脱落した。

要旨：生活習慣や態癖・強い咬合力が関与している重度歯周炎患者に対し、一連の歯周治療を行ったところ歯周組織は安定した。左下2、右下5の存在は補綴設計に大きく影響が出ると考え左下3、大白歯部での咬合支持獲得のためインプラントを用いながら力のコントロールを行い歯の保存に努めた。最終補綴物は、インプラントとブリッジによる一次固定を用い安定した咬頭嵌合位を得ることができた。咬合が安定するに従い強い咬合力を発揮していることが予測され、今後も力の要素を考慮しメンテナンスを続けていきたいと考えている。先生方からも症例の見方、補綴設計についてご教授いただけると幸いです。

略歴：2001年 明海大学歯学部卒業

2004年 東京都足立区 ソアビル歯科医院開業

○岩城秀明先生（岩城歯科医院）

「支台歯形成を分析する ～匠の技の科学～」

目的

支台歯形成にはコツがあり、匠と呼ばれる先生方のコツは体の中に染み込んでおり、言葉に表現するのが難しく、若手の先生にとって習得するのが難しい。この暗黙知を、データを取り分析し形式知に変えるようにしたいと考えた。

方法

- (1) 熟練者の先生の形成法を動画に撮影し、動きの差を比較、分析を行った。
- (2) 回転切削器具「タービン、高速コントラアングル、コントラ」とバーの組み合わせを変えて形成し表面性状に変化が生じるのか実験、分析を行った。
- (3) 自身の臨床ケースを分析、検証した。

考察・結果

匠は、ポジショニング、レストの位置の工夫、一筆書きのように動かし、なるべく口腔全体を見渡せ、手先でなく、手首や腕を使って形成を行っていた。タービン、高速コントラアングルで形成面に差はなかったが、コントロール法は異なった。バーの種類を極力少なくした方が形成面が一定になることが多かった。

略歴：2005年 九州歯科大学卒業

2006年 九州歯科大学総合歯科臨床研修

2007年 医療法人立山歯科勤務

2008年 岩城歯科医院開業 現在に至る

所属：JACD 上田塾、顎咬合学会、樋口塾、北九州歯学研究会若手会

○川村則夫 (川村歯科)

「補綴治療の longevity を目指して。～私の包括歯科臨床～」

歯科治療は炎症（プラーク）と力のコントロールである。

補綴治療においてセラミック材料を選択し、マージンを歯肉縁下に設定することは劣化した歯質よりもプラークコントロールが容易になると考えている。その一方で不適合なマージンは大きな為害性をもって歯肉に炎症を引き起こすため、基本的な手技の習熟が求められる。

また全顎的な治療に近づくほど、補綴装置により歯列、咬合を整えやすいが、ロングスパンブリッジやインプラントなど、生体の経年的リモデリングに対応しにくい装置を用いることになる。その整合性を得るために補綴学的咬合論を熟知する必要があるだけでなく、生理学的咬合論として術前から十分な力のコントロールが行われないと、補綴治療の Longevity は望めないと考える。

略歴：平成 9 年 九州歯科大学卒業
同年 福岡県久留米市 吉松歯科 勤務
平成 13 年 福岡県京都郡 松延歯科 勤務
平成 14 年 高知県四万十市に川村歯科を開業

所属：青木塾、JACD、咬合療法研究会、経基臨塾、SALDO、日本審美歯科協会会員

○中島稔博先生（なかしま歯科クリニック）

「Dentistry を再考する」

包括歯科臨床の目的は「顎口腔の炎症の要素、力の要素を包括的な観点で診断し、最小の侵襲で最大の治療効果をあげる」ことである。それを実践するためには、全身から顎位、口腔内単位、そして歯牙単位までを総合的に診断した上で治療を進めていくわけであるが、歯を支えている周囲組織が安定していない限り、長期的に良好な予後は望めないのではないかと考える。

そのためには、根管治療、歯周治療、補綴治療など、歯牙単位の治療を可能な限りの確に行い、メンテナンスを通して治療経過を再評価していく必要がある。それこそが、包括歯科臨床における Dentistry の役割ではないだろうか。

そこで今回は、包括歯科臨床の中での歯牙単位の治療の基本的事項について、症例を供覧しながら再考してみたい。先生方のご指導、ご批判を賜ることができたら幸甚である。

略歴：1995 年 3 月 福岡歯科大学卒業
1995 年 4 月 福岡県ヤマヂ歯科クリニック勤務
1999 年 4 月 福岡県さかきデンタルクリニック勤務
2002 年 1 月 北九州市にてなかしま歯科クリニック開院
2016 年 4 月 福岡歯科大学総合歯科学講座臨床准教授就任

所属：日本顎咬合学会認定医、日本歯周病学会会員、日本臨床歯周病学会認定医
Osseointegration Study Club of Japan 正会員、日本審美歯科協会会員
JACD 会員、北九州歯学研究会会員、上田塾会員、歯科臨床追究会 白石組会員